



【学校の教育目標】 かしこく なかよく たくましく

うれしいなあ

少し前のお話ですが、10月に教育委員の学校訪問がありました。

栃木市教育委員会の教育委員3名と教育政策係長による訪問でした。数年に一度、市内各小中学校を訪問することになっています。

来校した時がちょうど休み時間。1年生がジャングルジムにのぼっていて、元気にあいさつしてくれたようです。玄関を入ると、低学年児童が暗唱詩文集を見せて、暗唱を披露してくれました。子供らしいお出迎えにあって、委員の方もうれしそうでした。

各教室の授業の様子を参観し、話合いをしました。

委員の方から次のようなことを言われました。

「どのクラスも落ち着いて学習に向かっていますね。1年生も全員が席に座ってしっかり授業を受けていて、すばらしいと思いました。」

「休み時間に元気に遊ぶことと授業中に落ち着いて学習に向かうことの切り替えがしっかりできていますね。」

「算数の授業で「先生、分かりません」と声に出て言ったり、友達に「分からない」と伝えたりしているクラスがありました。分からないことを声に出て言える安心感、先生との信頼関係が築かれているなあと思いました。」

「先生や子供たちの表情がよく、温かなクラスが多いと思いました。」

多くの学校を参観されている委員の方からこのように本校児童のよさを認められ、すごくうれしい気持ちになりました。

委員の方からは改善点もご指摘いただいたので、全職員で共有しました。



校長室前廊下で暗唱テストの練習をする子供たち



授業を参観される委員の方々

ピグマリオン効果

聞きなれない言葉だと思いますが、「ピグマリオン効果」という説があります。

簡単に言えば、「あなたはいい子だ。」と言い続ければいい子になり、「あなたは悪い子だ。」と言い続ければ悪い子になるという説のことです。

アメリカという国は、とんでもない実験を平気でやってしなう国だなあと思うのですが、次の実験が本当に行われました。

ハーバード大学の有名な教育学者ローゼンソール博士とその弟子たちが、ある小学校で数か月にわたって子供たちの診断活動をしました。

そして、1枚のリストを学校に残しました。そのリストには、将来学力を大きく伸ばすに違いないという子供たちの名前が並んでいました。

つまり、その子供たちは、将来どんどん学力を伸ばすだろうというお墨付きを、一流大学の一流教育博士からいただいたことになります。

将来学力を大きく伸ばすに違いない子のリスト

ハーバード大学 ローゼンソール

数か月間、本校で子供たちを詳しく調査した結果、次の子供たちは将来学力を大きく伸ばすと診断する。

| | | | | | |
|---|--------------|----|---------------|----|--------------|
| 1 | A · Smith | 11 | Y · Brown | 21 | V · Jones |
| 2 | B · Johnson | 12 | W · Garcia | 22 | H · Martinez |
| 3 | G · Williams | 13 | M · Rodriguez | 23 | N · Anderson |

ところが、その学校の先生たちは一様に首をかしげました。優秀な子供もいるのですが、中にはどう考えても学力の厳しい子もたくさん入っていたのです。

さて、一年後、総合学力テストが行われました。

その結果——。

リストに載っていた子供は全員、例外なく学力が著しく向上していました。

おどろいたのは、その学校の教師たちでした。

博士のおどろくべき眼力、研究調査活動の奥の深さに畏敬の念をもって、そのことを報告しました。

ところがです。

このリストはデタラメだったのです。サイコロをふって当たった子の名前を並べただけのものだったのです。

驚くべき——というか大胆きわまる壮大な実験でした。

この子たちの学力を向上させたもの——。それは間違いなく、その子を見つめる他人の目だったといつていいでしょう。

1か年の間、その学校の教師たちは、この子たちを「学力が大きく向上する子」として見てきました。ただそういう目で見ただけで、学力が向上したのですからそら恐ろしくなります。

私はこのことを思い出すたびに、これが反対でなくてよかつたなあと考えてしまいます。

もしこれが「学力が下がる子」のリストだったら、1年後、どのような結果になるかが、目に見えるような気がするからです。

ギリシャ神話の中のピグマリオンから名づけられたというこの効果は、その後、教育の中に様々な形で取り入れられてきました。

今では、「よさを認めて褒める。」「可能性を信じて励ます。」「信じて待つ。」等の考え方は、かなり定着してきたように思います。

しかし、それはそれ・・・分かつちやいるけどついつい・・・というのが人間というものです。

本校の学校経営計画にある【目指す教師像】は

「だれにだって可能性はある。たった一人の例外もなく。」の信念をもち、専門的な知識・技術・技能の向上に努める教師。

です。考えてみたら、ピグマリオン効果に合ったものになっています。

子供たちの可能性を信じる教師集団でありたいと思っています。

ご家庭でも、時々、ピグマリオン効果を思い出していただければ幸いかと思います。

◆自治会の方から書き込みがありましたので、ご紹介いたします。(原文のママ)

教員を定年退職し、自宅でゆっくり過ごしております。自治会の回覧で回ってくる「東山」を読むのを楽しみにしています。校長先生の教え子さんからの書き込みにすごく感動しました。30年近く経ってもこのような交流があることに、大変驚きました。このようなことが本当にあるのですね。教員の仕事の尊さを改めて感じました。師走に入り忙しい時期だと思います。先生方、どうぞお体ご自愛ください。

(メールアドレスの入力がなかったのでこちらで返信します)

【校長より】書き込みありがとうございます。私もびっくりしました。文章を読みながらジーンときました。○○さんのことは4年生の時の1年間担任しましたが、よく覚えています。しっかり成長し、母親として頑張っているようで、うれしく思いました。このような交流ができるのも教師のすばらしさだと思います。

私からの一方向ではなく、双方向になればよいと思っております。「学校だより」やホームページ等へのご感想・ご意見をお寄せいただけするとありがたいです。

